

2025 年度
横浜みどりアップ計画
実績報告書【巻末資料】



横浜みどりアップ計画の評価・提案

横浜みどりアップ計画市民推進会議 2025 年度報告書

案

横浜みどりアップ計画市民推進会議

2026 年〇月

目 次

1 はじめに	1
2 横浜みどりアップ計画市民推進会議について.....	○
3 市民推進会議 2024～2025 年度の活動実績.....	○
(1) 活動の概要	
(2) 活動の詳細内容	
ア 市民推進会議(全体会議)	
イ 施策別専門部会	
ウ 広報・見える化部会	
エ 調査部会(現地調査)	
4 横浜みどりアップ計画の評価・提案.....	○
◆計画の体系	
(1) 柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む	○
施策1 まとまりのある樹林地の保全・活用	
(2) 柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる.....	○
施策1 農に親しむ取組の推進	
施策2 「横浜農場」の展開による地産地消の推進	
(3) 柱3 市民が実感できる緑や花をつくる.....	○
施策1 市民が実感できる緑や花の創出・育成	
施策2 ガーデンシティ横浜の更なる推進	
(4) 効果的な広報の展開	○
市民の理解を広げる広報の展開	
(5) その他事項に対する評価・提案.....	○
5 市民推進会議委員名簿.....	○
6 市民推進会議委員からのコメント.....	○
7 広報・見える化部会からの情報提供.....	○

(2)

柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

良好な景観形成や生物多様性の保全など、農地が持つ環境面での役割や機能に着目した取組、地産地消や農体験の場の創出など、市民と農の関わりを深める取組を展開。

施策1

農に親しむ取組の推進

事業① 良好な農景観の保全

- (1) 水田の保全
- (2) 特定農業用施設保全契約の締結
- (3) 農景観を良好に維持する活動の支援
- (4) 多様な主体による農地の利用促進

事業② 農とふれあう場づくり

- (1) 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設
- (2) 市民が農を楽しみ支援する取組の推進

2025 年度実績報告書 関連ページ



- 取組の評価・検証
p.〇～p.〇
- 各区の実績
p.〇～p.〇

◆ 施策1についての評価・提案

事業①について

- ・
- ・

事業②について

様々な市民ニーズに合わせた農園の開設について

・栽培収穫体験ファームや環境学習農園など、一般的な市民農園とは異なる取組も大変重要です。さらに、農園付公園にトイレ等があることは他都市では見られない特徴です。こうした設備が整えられることで、若い女性や乳幼児・子ども連れの方々も農体験に参加しやすくなるとよいと思います。

市民が農を楽しみ支援する取組の推進について

・地域でボランティア活動をしていると、専門家のアドバイスが欲しいという声をよく聞くため、「農のコーディネーター事業」は非常に良い制度だと思います。こうした制度も、市民や民間の方が利用しやすいように広報に力を入れてもらいたいと思います。

- ・みどりアップ計画の取組がなければ子どもたちに農体験を提供することもできませんし、協力してくださる農家の方々を募ることも難しいと思います。みどりアップ計画の取組は地域に根差しているからこそ、地域の方々も協力してくださるのだと思います。こうした取組をPRすることによって、市民の理解もさらに深まるのではないかと感じました。
- ・女性が農業の現場で活躍している姿を非常に素晴らしいと感じています。そうした方々の活動を紹介すれば横浜の農業に参加したいと考える市民が増えるのではないのでしょうか。

施策2

「横浜農場」の展開による地産地消の推進

事業③ 身近に農を感じる地産地消の推進

- (1) 地産地消にふれる機会の拡大

事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開

- (1) 地産地消を広げる人材の育成・支援
- (2) 市民や企業等との連携

2025 年度実績報告書 関連ページ



- 取組の評価・検証
p.〇～p. 〇
- 各区の実績
p. 〇～p. 〇

◆ 施策2についての評価・提案

事業③について

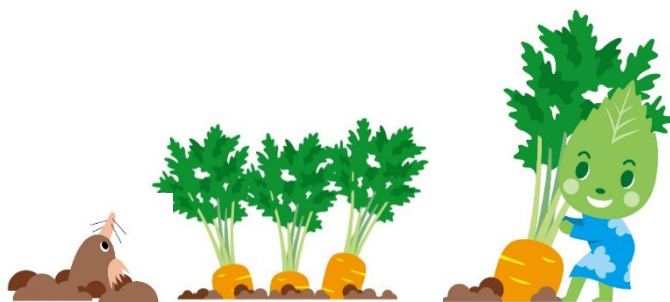
- ・
- ・

事業④について

- ・
- ・

.....

池島 祥文



実績報告書について

- ・地域は住民のニーズにこたえる形で動いています。そのためみどりアップ計画の実績についても、取組によって、地域に体験の場が広がったり、学校教育にもつながったりするなど、地域が実際にどのように活性化したのか、地域へどんな寄与があったのかといった波及効果について示すことにより、事業への評価がさらに高まるのではないかと思います。

市民の関わりの向上について

- ・緑の取組は学校だけでなく、地域へのアプローチも丁寧に行っていく必要があります。あわせてホームページや情報発信を分かりやすくできれば、活用できる人も増えるのではないかと思います。そのことが満足度向上にもつながると思います。
- ・横浜市の所有する土地や施設と、活動したい学生とをつなぐ仕組みがあれば、若者を緑づくりの現場に引き込むことができると思います。緑の取組は数多くあると思いますが、場所を作るだけでなく、活用したい人とならぐ取組も増やしていただけたらいいのではないかと感じました。
- ・みどりアップ計画の3つの柱はいずれも、単にハードを整備するだけではなく、「農を感じる」、「実感できる緑・花」、「森を育む」という、関わりを前提としたものです。そういう意味では、今後はより多くの市民がより多様な関わり方ができる施策を強化していく必要があると思います。それは広報だけではなく、例えばコーディネーター派遣のように、事業展開の中で関わりが生まれる仕組みを増やしていくことが重要だと思います。
- ・一度みどりに関心を持ってくれた人たちが、その後どうやって緑に関わり続けるのかといった点が重要だと思います。現状では、緑の維持管理活動や学習など、比較的深い活動が中心ですが、「維持管理まではいかなければ、少し体験してみたい」という層に向けた裾野を広げる事業が増えると、継続的に関わる方も増えるのではないかと思います。
- ・「木が1、2本あるだけで生まれる木陰」や、そこに置かれた居心地の良いベンチ、あるいは、ミストなどを使った涼しさの演出といった小さな工夫が、これからは必要だと思います。こうした小さな工夫によって、整備した場所がこれからも市民に愛される場所であり続けることが大切だと感じています。
- ・私たち17名の委員も、みどりアップ計画のアンバサダーのような立場で積極的にPRをしていきたいと思っています。

横浜グリーンエクスポについて

- ・地域で花づくりを行っていることに加え、林地や農地があり、農業も盛んであり、街路樹の整備にさまざまな工夫がされているなど、横浜グリーンエクスポは横浜市の多様な緑の取組を紹介できる機会でもあります。ホームページやパンフレット等で、「横浜市はこれまで長く、こんな施策を実施してきたから園芸博を開催する」という情報を発信し、海外の方に里山などにも足を運んでもらい、これまでのみどりアップ計画による実績を見てもらえるような工夫が必要だと思います。

維持管理について

- ・今後、植栽する樹種についても、高温や乾燥に強い種類やグラス類などの導入を検討する必要があると感じています。また、維持管理に関わる作業員の安全確保も重要です。草刈りロボットの活用や作業時間の見直しなど、働き方そのものを先進的に考えていくことが求められているのではないかと思います。

6 市民推進会議委員からのコメント

市民推進会議の委員を務めてきたなかで感じたことや、生活の中で、みどりについて日ごろ感じたことについて、委員からのコメントです。

〇〇委員コメント

委員の皆さまにコメントをいただきます





横浜みどりアップ 葉っぴー